



しもながや

平成20年5月30日発行

横浜市立下永谷小学校

ボランティアの皆様のお力をお借りして

学校長 大石久宜

サツキの花がきれいに咲いています。また、紫陽花の花は少しずつ色づき始めました。6月に入り、うっとうしく感じる梅雨の時期が近づいてきました。しかし、この雨水は私たちの生活水や動・植物の生長などには欠かすことのできないものです。学校生活においても上手につきあっていければと思います。

さて、朝、西門に立っていると、西門近くの横断歩道で横断旗を持って保護者の皆さんや、木の実クラブの安全パトロールの皆さんに子どもたちの歩行の誘導をしていただいている様子を見ることができます。また、先月、読み聞かせボランティアの打ち合わせ会に出させていただきます。水曜日の読書の時間（8時30分～8時45分）に読み聞かせをしていただくのですが、1・2年及び5・6組は毎週、3・4年は隔週、5・6年は3週に1回行われます。本年度は、55名のボランティアの方に登録していただきました。更には、生活科の学習で地域の教育ボランティアの皆さんのお力をお借りして学習を進めています。



宮沢賢治の詩に「雨ニモマケズ 風ニモマケズ」で始まる有名な詩があります。その詩の中に次のような一節があります。

東ニ病氣ノコドモアレバ	行ッテ看病シテヤリ
西ニツカレタ母アレバ	行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ
南ニ死ニソウナ人アレバ	行ッテコハガラナクテモイトイヒ
北ニケンクワヤソシュウガアレバ	ツマラナイカラヤメロトイヒ

（以下略）

そして、宮沢賢治は「サウイフモノニワタシハナリタイ」という言葉でこの詩を結んでいます。

- ・東に病氣の子どもがいれば、出かけて行って看病をしてあげる人になりたい。
- ・西に疲れた母親がいれば、そこへ行って農業の手助けをしてあげる人になりたい。
- ・南に重い病の人がいるなら、元気づけてあげる人になりたい。
- ・北に人同士が争っていれば、そんなつまらないことはやめろ、と言うような人になりたい。ということです。

私の勝手な解釈かもしれませんが、宮沢賢治がになりたい人と言っているのは「日常生活の中でのボランティア活動をする人」ではないかと思えます。ボランティア活動には様々なものがあります。例えば、紙芝居を子どもたちに見せて子どもたちの心の傷を治そうとした教育ボランティア、屋根に上って傷んだ屋根の修繕をした青年は技術提供のボランティア。このいずれも阪神淡路大震災の時のボランティアです。このような災害時は特別かもしれませんが、日常生活の中で協力・協働の気持ちでボランティア活動をされてる方には頭が下がります。

前述した登校時の見守り活動や読み聞かせをしていただいている方だけでなく、PTA、木の実クラブ、教育ボランティア、関係機関の外部講師など、本校は多くの学校ボランティアの皆さんにご支援・ご協力をいただきながら、教育活動を進めています。本当にありがとうございます。本年度の下永谷小学校マニフェストの中にも、「保護者や地域の皆さんと共に学校づくりを進めます。」を載せさせていただきます。

今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。